

002 本田和子 ジェンダー研究の進展によせて

I F-GENSについて

- 009 戒能民江 アジアから発信する、ジェンダー研究の世界的拠点形成をめざして——創刊の辞にかえて
- 012 戒能民江・伊藤るり プロジェクト A 目的・概要：政策と公正
- 015 永瀬伸子 プロジェクト B 目的・概要：少子化とエコノミー
- 018 館かおる プロジェクト C 目的・概要：身体と科学・医療・技術
- 020 竹村和子 プロジェクト D 目的・概要：理論構築と文化表象——ジェンダーをめぐる「HOW」と「WHAT」の探求

間プロジェクト研究事業

- 022 永瀬伸子 パネル調査事業について
- 023 小山直子 文化表象データベース作成
- 023 館かおる 連携研究「アジア認識とジェンダー」

II シンポジウム・講演会

国際シンポジウム「科学技術政策とジェンダー」

- 026 館かおる 概要報告にあたって
- 029 Nicole Dewandre Promoting gender equality in European scientific research

公開セミナー「司法とジェンダー 日米比較」

- 039 マージョリー・D・フィールズ アメリカにおけるジェンダーと法
- 043 Marjory D. Fields Gender and Law in the USA
- 053 長谷川京子 司法のジェンダー・バイアス——女性に対する暴力の領域で
- 056 質疑応答

シンポジウム「ジェンダー研究の理論と表象分析のいま——国家・資本・表象の共謀と攻防」

- 059 竹村和子 発題にかえて
- 062 天野知香 視覚「芸術」における身体とジェンダー
- 074 牟田和恵 近代国民国家とジェンダー
- 079 吉見俊哉 占領期日本における天皇表象とジェンダー
- 092 大橋洋一 ホモソーシャル体制と表象
- 096 荻野美穂 シンポジウム・コメント
- 099 キース・ヴィンセント (報告者 越智博美) シンポジウム・コメント

国際シンポジウム「遺伝子・身体・女と政治——ポスト・ヒトゲノム・プロジェクト時代の科学・医学をジェンダーで再考する」

- 102 柘植あづみ 開催にあたって
- 105 Rayna Rapp Genes, Gender, Genomics: Rethinking Science Through Women's Bodies
- 114 Margaret Sleeboom Sex Selection and Genetic Screening in Postgenomic Society: Scientific and Feministic Blinkers
- 126 柘植あづみ シンポジウムにおける議論の概要

講演会「DV加害者再教育の方向性——アメリカの経験から学ぶこと」

- 133 スティーブン・D・ボトキン なぜメンズセンターか
- 137 Steven D. Botkin Why a Men's Center
- 141 ラッセル・C・ブラッドベリー＝カーリン 男性の脱暴力トレーニング
- 145 辻雄作 DV加害者介入——ジェンダー・バイアスに陥らないために
- 147 質疑応答

講演会「ホモソーシャルティと近代日本文学」

- 149 Keith Vincent Two Readings of Homosociality in Natsume Soseki's *Kôjin*

講演会「セクシュアリティ研究と文学研究」

- 152 Keith Vincent Sexuality and Style in the Modern Japanese Novel

- 155 小川真里子 研究会 (講演) ロンダ・シービンガーの科学史・科学政策研究

III パネル調査

家族・仕事・家計に関する国際比較

- 166 御船美智子・李秀眞 韓国パネル調査の実施
 170 水野勲・永瀬伸子 中国パネル——事前調査と家庭訪問
- 173 篠塚英子 ジェンダー統計の研究周辺
- 177 金子憲 鄭躍軍助教授講演報告「国際比較調査の基礎研究——中国調査を事例として」
- 181 石塚浩美 各種調査にみる女性の就業形態の設問について——ジェンダーの視点からの再検討
- 186 村尾祐美子 統計調査にみる「価値観」項目に関する覚書
- 189 金子憲 ジェンダー研究における国際比較調査の意義——「男女共同参画社会」への政策推進との関連で
- 193 竹沢純子・辺静 台湾のパネル調査から学ぶ

IV ワークショップ・研究ノート

- 198 四宮佳苗・林有維 エリ・バルトラ講演会報告
 201 大村香苗 Eli Bartra 「メキシコのフォーク・アートとジェンダー」(ARTE POPULAR MEXICANO Y GENERO) 書評
 206 Kanae Omura エリ・バルトラ講演へのコメント Arte Popular or Folk Art and National Identity in Mexico
- 若手研究者のためのワークショップ「ポストゲム時代の生物医学をジェンダーの視点で再考する」
- 212 柘植あづみ 開催にあたって
 214 三村恭子 ポストゲム時代に既存の医療技術を振り返る——日本におけるマンモグラフィ検診の考察
 217 小門穂 フランスにおける匿名出産制度
 219 大谷いつみ 生殖技術をどのように教えるか——ジェンダーの視点による高校生命倫理教育の試み
 221 清水清美 AID (非配偶者間人工授精) を選択した親が、産まれる(た)子どもに事実を伝えることに関する研究
 223 古澤有峰 未来世界に描かれるポストゲム時代と現代社会——「地球(テラ)へ……」にみる生物医学とジェンダー像
 225 中山いづみ 「季節に一度」：ポストゲム時代の月経抑制技術
- 若手研究者のためのワークショップ「健康／セクシュアリティ概念のジェンダー分析」
- 227 根村直美 開催にあたって
 228 朝倉京子 看護学領域におけるセクシュアリティ概念
 233 高橋都 朝倉京子「看護学領域におけるセクシュアリティ概念」へのコメント
 236 藤掛洋子 開発におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツ——パラグアイ農村女性の事例より
 242 村田陽平 藤掛洋子「開発におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツ——パラグアイ農村女性の事例より」へのコメント
 244 菅野摂子 「出生前検査」と「自己決定」
 249 田中俊之 菅野摂子「『出生前検査』と『自己決定』」へのコメント
 251 根村直美 「力の論理の否定」と「力の平等性」の追求をめぐって——倫理学におけるジェンダー・パースペクティブの意義

V 活動報告

262	伊藤るり	デリー大学国際会議「アジアにおける女性と移動」に参加して
265	谷口真由美	The 2nd Asia Pacific Conference on Reproductive and Sexual Health (APCRSH) 会議報告
269	伊藤るり	「アジアにおける国際移動とジェンダー配置」研究会
272	永瀬伸子・中野裕美子・栗本京子	「家族・仕事・家計の国際比較分析」研究会
278	丹野さくら	シービンガー研究会
281	丹野さくら・堀芽里	「科学技術政策とジェンダー」研究会
283	波平恵美子	月経・生殖・身体に関する人文社会系雑誌における文献研究
284	仙波由加里	ポストゲノム時代における生物医学とジェンダーに関する研究会
287	根村直美	健康／セクシュアリティとジェンダー研究会
290	吉川純子	トリン・T・ミンハ新作映画上映会および講演会報告
293	松永典子	「ポスト国家／ポスト家族」言説のフロント 上野・西川・春日・竹村論文をめぐる応答
297	周一川	「アジア認識とジェンダー」研究会
302		執筆者一覧
306		編集後記
308		FRONTIERS OF GENDER STUDIES (F-GENS): GLOBAL RECONFIGURATIONS OF “WOMAN”, “FAMILY”, “COMMUNITY”, AND “THE STATE”